

平成21年度川崎異業種研究会 通常総会開催される



川崎異業種研究会は、5月21日(木)川崎グランドホテルにおいて、通常総会を開催した。議場では平成20年度事業・決算報告、21年度事業計画が諮られ、特に異議もなく満場一致で承認された。続いて平成21年度の新役員を選出した。

総会に先立ち紀中会長からは、「世界大恐慌に突入し我々会員企業を取り巻く環境は一段と厳しさを増しており、景気後退が深刻化することが懸念される状況にある。このような中で生き残りをかけた企業力が問われる今だからこそ、発想の転換を図る為に色々な価値観を持った異業種のつながりを大切にすることが重要である。平成21年度は、こうした直面する経済危機を克服し未来への展望を開くために、これまでと同様に当会の活性化に取り組むたい。

具体的には、当会の主な事業である定例会の会員交流事業を充実させる。会員企業の経営課題を個別討論する場として、二つの委員会と広報部会を統合し、新たに分科会を発足させる。当会と和光大学との産学連携を一層推進するため活動主体を分科会が担当する。

先輩方々の築かれた当会の良き伝統を継承し、更なる発展に全力を尽くす所存なので、皆様方のご支援ご協力をお願いしたい」と本年度事業方針についての説明とお願いがあった。

続いて、川崎フロンターレ代表取締役社長の武田信平氏をお迎えし「元気印 川崎フロンターレの成長戦略」と題して講演を行った。

武田社長は「川崎フロンターレはサッカーを介して、活力溢れる魅力のある川崎の街づくりに貢献し、川崎に役立つ存在で

あることを目指している。

その方法として、地域密着を目指すホームタウン活動では、選手とサポーターの協働による多摩川の清掃活動や、選手が区民祭等の地域のイベントに参加するなど地元と親交を重ねている。

また、子供たちが興味を持って学習に取り組むための手伝いとして、川崎フロンターレ算数ドリルを制作した。スポーツ普及活動では市内小学校の体育授業を教師に代わって行い、技術ではなく楽しいスポーツを体験してもらっている。

チームコンセプトを「ひたむきで最後まで諦めない」「観る人に感動を与えるゲームをする」「川崎のシンボル誇りとなるチームになる」と定め、フロンターレは市民に愛され、市民の誇りとなる、市民クラブとして成長して行きたい」と語った。

続いて、場所を移し行われた懇親会では、西岡会頭が来賓として挨拶、(財)川崎市産業振興財団の君嶋理事長が乾杯の発声を行い、講演会講師の武田氏を始め多くの来賓・会員を交えた賑やかな懇親会となり、成功裏の内に終了した。



川異研HP → <http://www.kawaiken.jp/>

加入のお問い合わせは → 事務局：多摩麻生支所 TEL 044-932-1100